



食品をあまりせている国があるのに、どうして食品が足りない国があるの？

巢鴨小学校 5年2組 鍛冶倉 夕那

もくじ

☆ 調べようと思った背景	1
☆ はじめに	2
◦ 世界では17億人が飢えている	2
◦ すべての人に十分な食べ物が届けられていない	2
① 食べ物が足りていない国はどんな国？	4
◦ 世界の飢餓人口	5
◦ 飢餓人口が増加している地域	6
② どうして食べ物が足りないの？	7
◦ 世界の飢餓が起る原因	7
◦ なぜその暮らしなの？ どういう暮らしをしているの？	9
◦ 水の取り合いで紛争？	13
◦ 大規模な自然災害が地球温暖化で増えている	16
③ どんな団体がどのような支援をしているの？	17
◦ どんな団体があるの？	17
④ 施設の見学をして考える	24
◦ ユニセフハウスを訪れる	24
◦ JICA地球ひろばを訪れる	34
⑤ 私と那些人たちの暮らし方の違いについて考える	47
⑥ これから私たちはどうしたらいいか？について考える	49

調べようと思った背景

去年の調べる学習コンクールで生ごみをテーマに調べた時に、食品ロスについても調べました。その時、「食べ物をムダにしている国がある一方、年間1500万人がうえで七くなり、その70%が子ども」だということを知り、その人数の多さにおどろきました。

私の今の生活は一日3回の食事だけでなく、お腹が空いたらおやつが食べられます。こんな日常が当たり前だと思っていました。

食品が足りていない国があるということはテレビ番組やCMなどでほとんどなく知ってはいましたが、もっと真実に考えたいと思いました。

そこで今年は、食品をあまらせている国があるのに、どうして食品が足りない国があるの？ということについて調べようと思いました。

そして、これを知るために

① 食べ物が足りない国はどんな国？

② どうして食べ物が足りないの？

・なぜその暮らしなの？

・どういう暮らしをしているの？

③ どんな団体がどのような支援をしているのか

・どんな活動をしているの？

・年間どれくらいの金額？

④ 施設の見学をして考える(質問する)

⑤ 私とそれの人たちの暮らし方の違いについて考える

⑥ これから私たちはどうしたらよいか、について考える

について調べたり、考えようと思います。

調べる方法は図書館などの本をメインに調べ、足りない情報は信頼できるインターネットページから探します。

また、実際に施設に行き話を聞いたり、体験して考えようと思います。

はじめに

まず、食品ロスについてもう一度学び直すために図書館で食品ロスの本を探した時、SDGsの棚が目に止まりました。今回調べたいテーマはSDGsの①貧困、②飢餓(きが)なのではないかと思い、こちらへんの本を借りました。まずはSDGsの本を手掛かりに調べていきたいと思います。

「SDGsで考えよう 地球のごみ問題 どうしたら減らせる？食品ロス問題」P14、15によると、

世界では7億人が飢えている ① P.14

世界には食べ物がなく苦しんでいる人々がたくさんいます。2019年には、世界で6億9000万人、世界人口の11人に一人が飢餓(食べ物が十分に与えられないこと)に苦しんでいました。

また、4700万人の子どもが栄養不足のため消耗症(しょうもうしょう)になり、5歳未満で死亡した子どもも約半数が栄養不足で亡くなっているといわれています。

消耗症とは

身長に対する体重が標準より少なく、とてもやせている状態。重度の栄養不足により命の危険がせまる

世界の人口の11人に一人が飢餓！
私の学年が48人だから、学年で考えると約4人も飢餓で苦しんでいることになるよ！そんなにたくさんの方が飢餓で苦しんでいるとは知らなかったよ。もっと限られた場所にいるごく少数の人かと思っていたよ。



すべての人に十分な食べ物が届けられていない ① P.15

2000年には約61億人だった世界人口は2020年には約78億人まで増えました。しかし、飢餓に苦しむ人がいるのは人口増加のためだけではありません。世界の穀物生産量も人口増加に合わせて年間27億トンに増えています。

穀物の供給量は、世界全体でひとりあたり年間約174キログラムです。日本ひとりあたり年間140キログラムよりも多い量が供給されており、世界中の人が平等にわけあえば足りるはずなのです。

世界全体で見ても穀物の供給量は足りているんだね。きちんと分けて届けられるなら飢餓はなくなるはずなんだね。



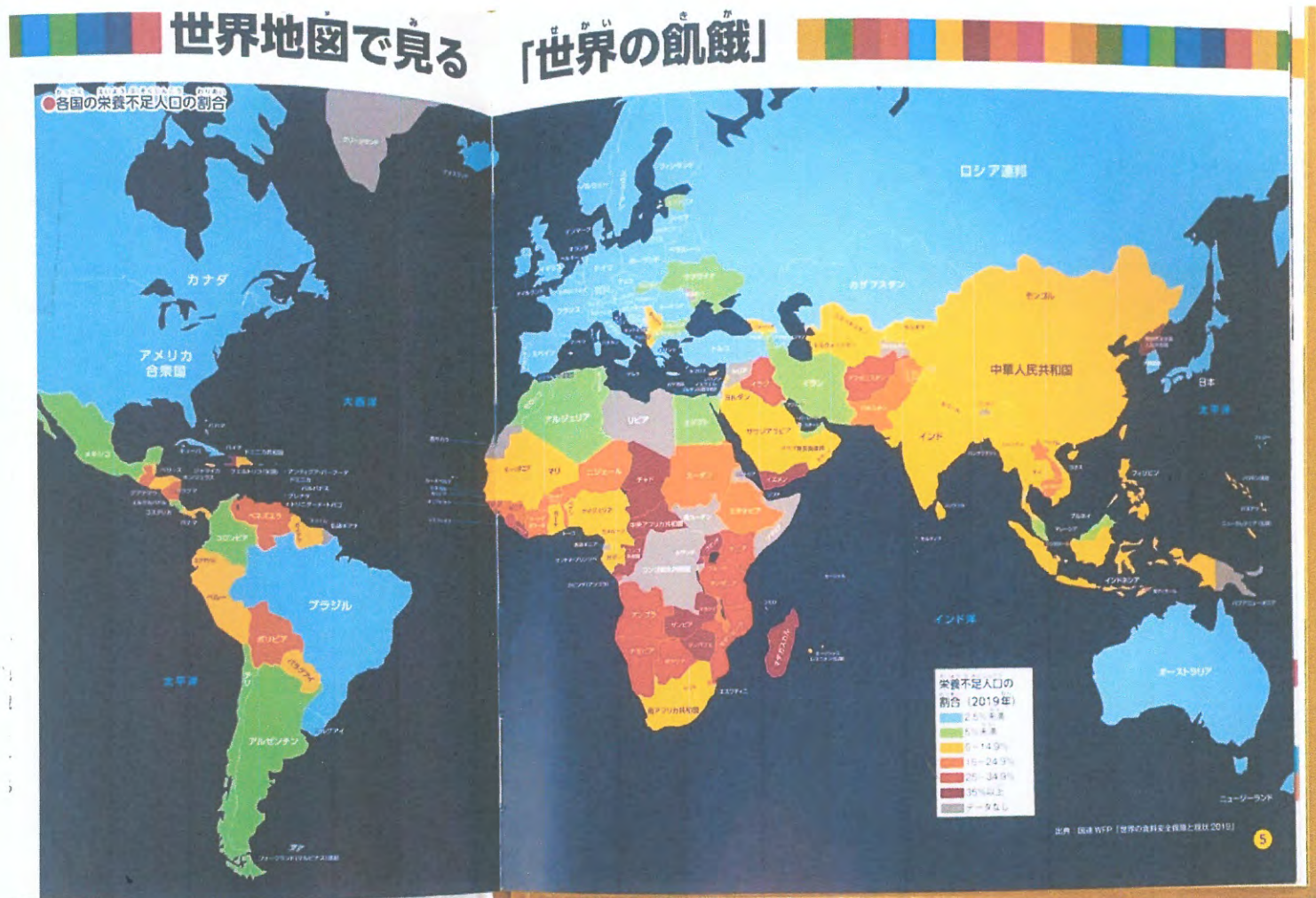
飢餓のおもな原因

戦争や異常気象、貧困、流通ルートの不整備などによって、人々が十分な食べ物をえられない。

そこで、どういう国に食べ物が足りていないのか、から、疑問に思ったことを調べていこうと思います。

① 食べ物が足りていない国はどんな国？

下の地図は「SDGsのきほん 未来のための17の目標 飢餓目標2」
②P4.5の地図です。



世界各地の飢餓の状況を世界地図上にあらわしたものです。
(2019年)栄養不足人口(飢餓人口)の割合が色分けされていて、国ごと
わかるようになっていきます。

この地図は「ハンガーマップ」といって、国際連合世界食糧計画
(WFP)がつくっているもの。濃い赤色の国では、3人に1人以上が飢餓
に苦しんでいます。一方で水色の国では、全人口に対する飢餓に苦しむ
人々の割合は非常に少なくなっています。世界全体では、およそ9人に
1人にあたる8億2000万人あまりの人びとが飢餓に苦しんでいます。



注意

※図書館の本、数冊を参考に調べました。
本によって飢餓人口の出典がちがうため、記載している
飢餓人口が違いますがごりょうしょう下さい。

国際連合世界食糧計画 (WFP)とは？

国連唯一の食糧支援機関で、世界最大の人道支援機関。世界
から飢餓と貧困をなくすことを目指している。

この地図だと国の場所がわかりづらいね。



前のページの地図の濃い赤と赤の国をわかりやすいように表にしました。

地域	濃い赤	赤
アフリカ	リベリア チャド 中央アフリカ共和国 コンゴ共和国 ウガンダ ルワンダ マラウイ ガンビア ジンバブエ マダガスカル	ケニア タンザニア シエラレオネ ギニアビサウ モザンビーク アレゴラ ナミビア ボツワナ
西アジア	イエメン	イラク
南アジア		アフガニスタン

前のページの地図や上の表を見ると、濃い赤や赤で塗られた国は、私が思っていたより多かったです。特にアフリカ大陸に多くあるのはなぜだろう？



世界の飢餓人口 ② P.10

世界の国々には、2015年に「飢餓をゼロにしよう」と誓い合いました。でも、2019年の「世界の食糧安全保障と現状」という報告書によると、2018年は推計8億2000万人が十分な食料を得ることができず、世界の飢餓人口は3年連続で増加しているのです。

SDGsの目標達成期限は2030年。このままではSDGsの目標2の達成は不可能だと心配されています。SDGsの目標2を達成するための対策の一つとして、「発育障害のこどもの数を半減させ、低出生体重児を減らす」があげられています。ところがその対策の実行は、非常におくれています。また、そのほかのさまざまな対策もおくれています。

飢餓人口が増加している地域 ②P11

4ページのハンガーマップからわかる通り、飢餓が起きているのは、おもに
アフリカとアジアです。より深刻なのがアフリカで、飢餓蔓延率が非常に
高くなっています。WFPによると、アフリカのサハラ以南での飢餓蔓延率は
「近年中、ぐくりと着実に上昇」し、「東アフリカでは、人口の3分の1近く(30.8%)が
栄養不足」に苦しんでいるといます。

また、サハラ以南のアフリカ地域と南アジアの3人に1人の子どもは、発育障害
を起していると推定されます。

わかったこと

- ①ハンガーマップによると、世界全体では、およそ9人に1人にあたる8億2000万人あまりの人が飢餓に苦しんでいる。
- ②飢餓が起きているのはおもにアフリカとアジア。
- ③SDGsの目標達成2030年までに間に合わない可能性が高い。

② どうして食べ物が足りないの？

では、先ほど言われた食料の足りていない、おまにアフリカやアジアに住む人たちはどうして食料が足りていないのか、どういう暮らしをしているのか？なぜその暮らしをしているのか？などについて調べます。

世界の飢餓が起こる原因 ② P12~15

① 紛争

世界の飢餓の最大の原因は紛争です。とくに紛争による飢餓が深刻なのが中央アフリカ共和国、イエメン、アフガニスタン、イラクです。これらの4つの国だけで、飢餓人口の合計が3500万人以上になっています。これらの国では、はげしい内戦が起きています。イエメンでは、2015年に政府軍と反政府勢力の内戦が勃発。農村が戦場となり、農作物を生産できなくなりました。その結果、深刻な飢餓が起こり、世界の飢餓人口が増大しました。また、イエメンでは下痢とコレラもまんえん。大規模な集団感染が発生し、餓死者も増加しています。とくに幼い子どもがとんとん餓死しているのです。

紛争は人がやっていることだね。話し合いで解決できるなら飢餓にはらなくて済むよね。みんながSDGsの目標に向かって頑張ろうとしているんだから、紛争はやめて話し合いで解決してほしいな。



② 地球温暖化

現在、世界中で大きな自然災害により、飢餓が起きています。しかも、自然災害の発生数は年々増加しています。アフリカなどの開発途上国で起きた洪水や干ばつの数は、1990年と比較して2倍以上になったと発表されています。

地球温暖化が関係して、極端な気象現象が多発するようになり、また、減少傾向にあった世界の飢餓人口もふたたび増加させているのです。

地球温暖化は、私たちの便利な暮らしがまねいたことだと、去年の調べ学習の時に調べてわかりました。

けれども近年は持続可能な開発目標(SDGs)を私たちが矢張り機会も増えています。学校で学ぶこともあるし、日本の企業もSDGsに取り組んでいることが多く体験イベントに参加した時に各企業の取り組みを知ることがあります。地球温暖化についても、どうしてそうなったのかを正しく学び少しでも緩和させないといけないことも知りました。それと同時に私たちはエコをバガケゴミを減らし、リサイクルを元々張っています。ほかにもできることを元々張って、地球温暖化をみんなが緩和させて自然災害を減らしたいです。



③ 貧困

穀物は世界中のすべての人びとが食糧に必要で、その量は生産されていますが、食料を生産したり他国から買ったりすることができない地域に食料がいき届いていないからです。

自然災害や戦争によって農作物を収穫できない状態の地域であっても、そこへ食料が届ければ飢餓は発生しません。それができないような政治、経済、社会のしくみは大きな問題の一つです。また、個人としても、国としても、貧困に苦しんでいると食料を買うことができません。これらのことから、飢餓の本当の原因は貧困だということもできます。

自然災害や戦争で食料を収穫できない地域に食料が届けられるように国際社会が協力して元々張ってほしいです。また、国や個人で貧困に苦しんで食料を買えない人たちは、どうしたら貧困から抜け出せるのか、その仕組みについて考えて(支援して)早く貧困から抜け出せるといいなと思いました。

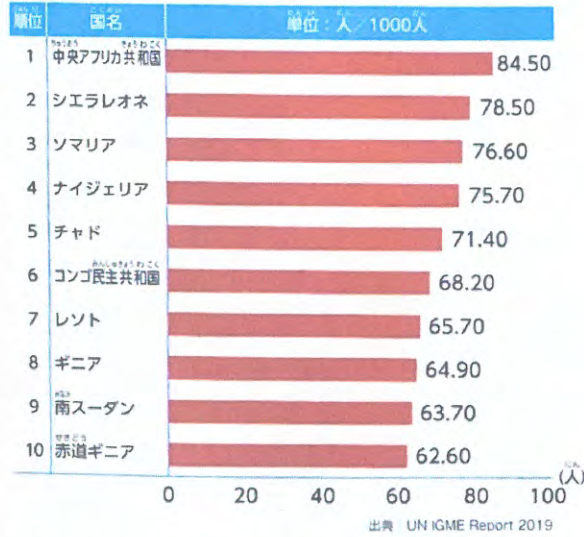


④ まずい国の出生率

飢餓が発生している国の貧しい家庭では、子どもをたくさん産みます。なぜなら貧しいから働く人がより多くいるほうがいいのです。また、そのような

国では5歳未満の子どもの死亡率が高く、生まれても死んでしまう可能性が高いことから、子どもをたくさん産むのです。

●世界の乳児死亡率の国別ランキング (2018年)



SDGsの目標17の目標2 R14

左は、乳児1000人あたりの死亡人数が多い国を示すグラフです。上位はすべてアフリカの国々にです。日本は下から5番目(189位)で、いちばん少ないのがフィンランド(193位)です。

私はお金がなくて食べ物が少ないかったら赤ちゃんを産んでも育てられないから産むのをやめようと思うけど、まずしい国の人たちとは考えがちかうようです。死んでしまうかもしれないけど、働き手を土壌やすために赤ちゃんを産むんだね。それだけ働き手が必要なくらい忙しいんだね。どんな毎日を送っているんだろう？

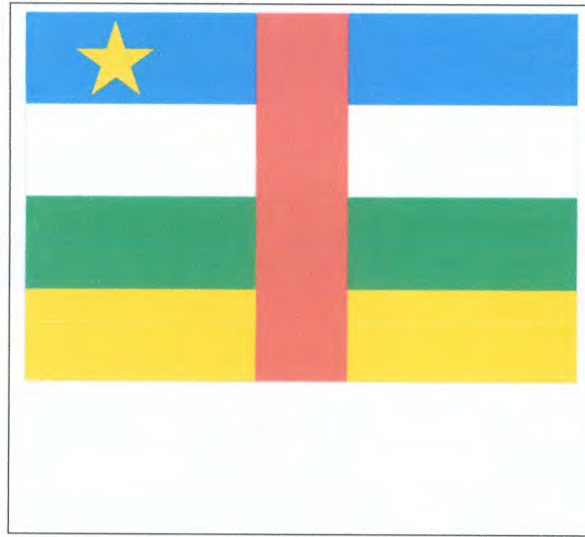


なぜその暮らしなの？ どういう暮らしをしているの？

では、この飢餓が発生している貧しい国の人たちが、なぜその暮らしになって、どういう暮らしをしているのかを知るには、その国一つ一つを調べる必要があります。そのため、今度は先ほどの「世界の乳児死亡率の国別ランキング(2018年)」の上位5国をインターネットで検索して、その国の貧困理由と暮らしを調べます。

①中央アフリカ共和国

国旗



場所



参考にしたサイト UNHCR(国連高等難民弁務官事務所)
 参考にしたURL <https://www.japanforunhcr.org/appeal/car>

貧困理由 <紛争>

2013年12月、武装グループ間の紛争により暴力が拡大、数十万人が避難を余儀なくされている。2020年12月27日に実施された総選挙の前後から暴力行為、政情不安がさらに深まり、74万人以上が難民保護希望者として国境を越えて隣国カメルーン、チャド、コンゴ民主共和国等に逃れ、さらに推定48万3000人以上が国内で避難を強いられている。

暮らし

逃れて来た人々の多くは、間に合わせのシェルターに留まっている。衛生環境は万全ではない。また、人々の避難生活が数か月以上にも及ぶと、彼らは種まきの時期を逃してしまいます。それは、その年の穀物の収穫ができず、深刻な食料不足に陥ってしまいます。

②

シエラレオネ

国旗



場所



参考にしたサイト ユニセフ

参考にしたURL <https://www.unicef.or.jp/special/africa/story/story03.html>

貧困理由 <紛争>感染症

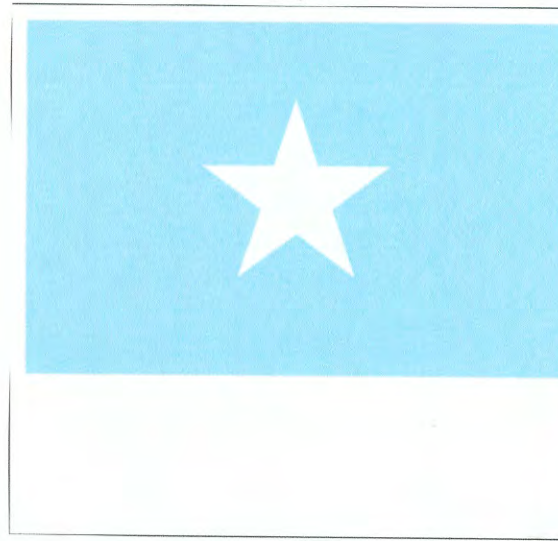
2002年に終わりを迎えた激しい内戦以降、この国が成し遂げてきた多くの経済的前進は、エボラ危機によって失われてしまいました。

暮らし

世界でも最貧困の一つであり、53%の人々が貧困ライン未満の生活を強いられています。2010年、初等教育学齢期の子どもたちの推定20%、約23万3,000人の子どもたちが学校に通っていませんでした。そしてその多くは社会的・経済的な問題が原因でした。

③ ソマリア連邦
共和国

国旗



場所



参考にしたサイト 国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン
参考にしたURL http://www.worldvision.jp/news/works/africa/202008_somalia.html

貧困理由 < 紛争 >

1991年に勃発した内戦により国土は分断され、事実上の無政府状態が続く。エチオピアの軍事支援を受けた暫定政権が首都を制圧したものの、依然として内戦状態が続いています。

暮らし

主要産業は畜産業や農業で、伝統的に家畜とバナナが主要輸出品目でしたが、内戦や度重なる干ばつ等の影響により経済は荒廃しています。2020年8月現在緊急人道支援を必要とする人口は700万人におよびます。

④ ナイジェリア

国旗



場所



参考にしたサイト UNHCR(国連高等難民弁務官事務所)
 参考にしたURL <https://www.japanforunhcr.org/appeal/nigeria>

貧困理由 <紛争>

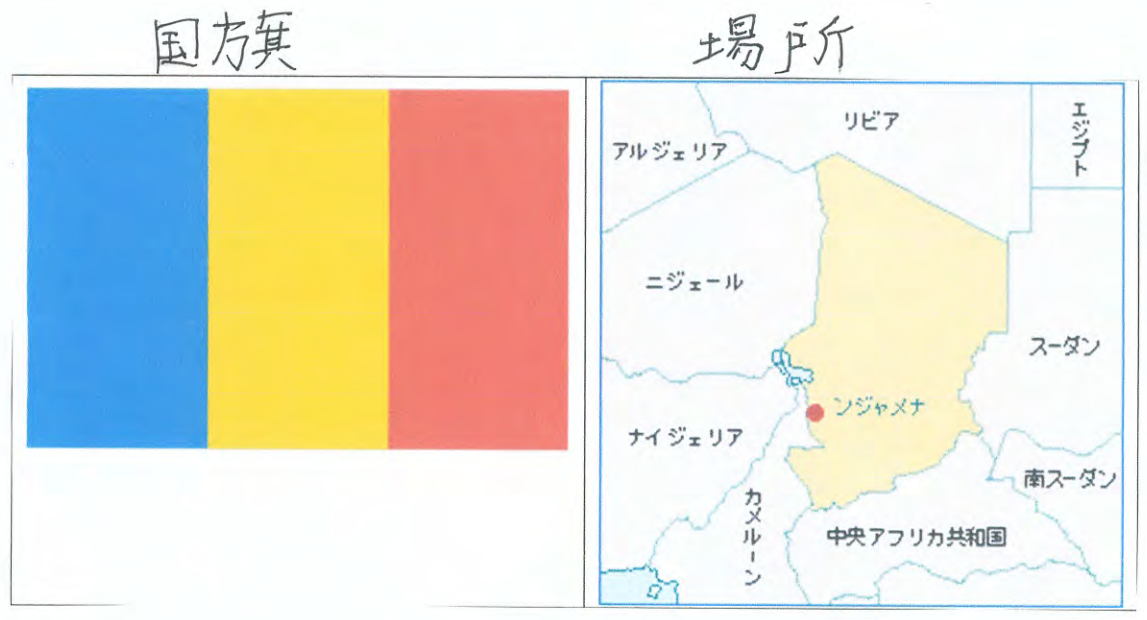
総勢276人の少女たちが誘拐された2014年。その後もボゴ・ハラム等の武装勢力による襲撃、強奪、焼き討ち等は後を絶たず、ナイジェリア難民危機は8年を迎えました。そして今現在も、この地は激化する暴力行為、広がる性的暴力、徴兵・自決暴行の脅威といった重大な人権危機に直面し、2021年上半期新たに避難を強いられた難民の数は、中央アフリカ、南スーダン、シリア、アフガニスタンに続き、世界で5番目に多いことが発表されました。

暮らし

ナイジェリア難民:33万人、国内避難民:312万人以上

ウクライナでの戦争といった要因により食料や火燃料の価格が上昇。北部では大規模な洪水により多くの人々の命がうばわれ、そして農地がこの記録的な豪雨の被害にあいました。

⑤チャド



参考にしたサイト 日本国際飢餓対策機構
 参考にしたURL <https://www.hungerzero.jp/news/archives/202107/003270.html>

貧困理由 <気候変動>

気候変動による不安定な乾季と雨季が、チャドの伝統的な生き方を脅か

している。結果、物草地在めぐり衝突が多発するため、仕事を失なった多くの人々がチャド北部の鉱山地帯での仕事を考えるようになる。金の採掘地帯である北部は、半ば無法地帯ともなっている。したがって鉱山仕事は搾取そのものであり、さらなる貧困へと追い詰められる可能性がある。たとえば人身売買業者や武装集団は、隣国リビアへ安い労働力として北部へ来た人々を販売している。

暮らし

毎月両親に送金しても石けん数個を購入できるだけ。二十数名でトラックに乗せられて食事は1日1回きり。人身売買業者は警察と連携しているケースも報告されている。

貧困の理由として5つのうち4つが紛争でした。シエラレオネは紛争が終わった後も感染症で苦しみ、苦しい生活が続いているようです。チャドは気候変動で仕事を失い貧困となっているようです。



水の取り合いで紛争?

④ P.22, 23

日本のように虫窓口をひねれば飲み水が出てくる国もあれば、家に水道がなく遠くまで水をくみに行かなければいけないところもあるのが今の世界の現実です。なかにはにこった水を使わざるを得ない人もいます。汚い水を飲んで病気になり、毎年多くの子どもが亡くなっています。じつは世界では水不足は深刻な問題になっているのです。

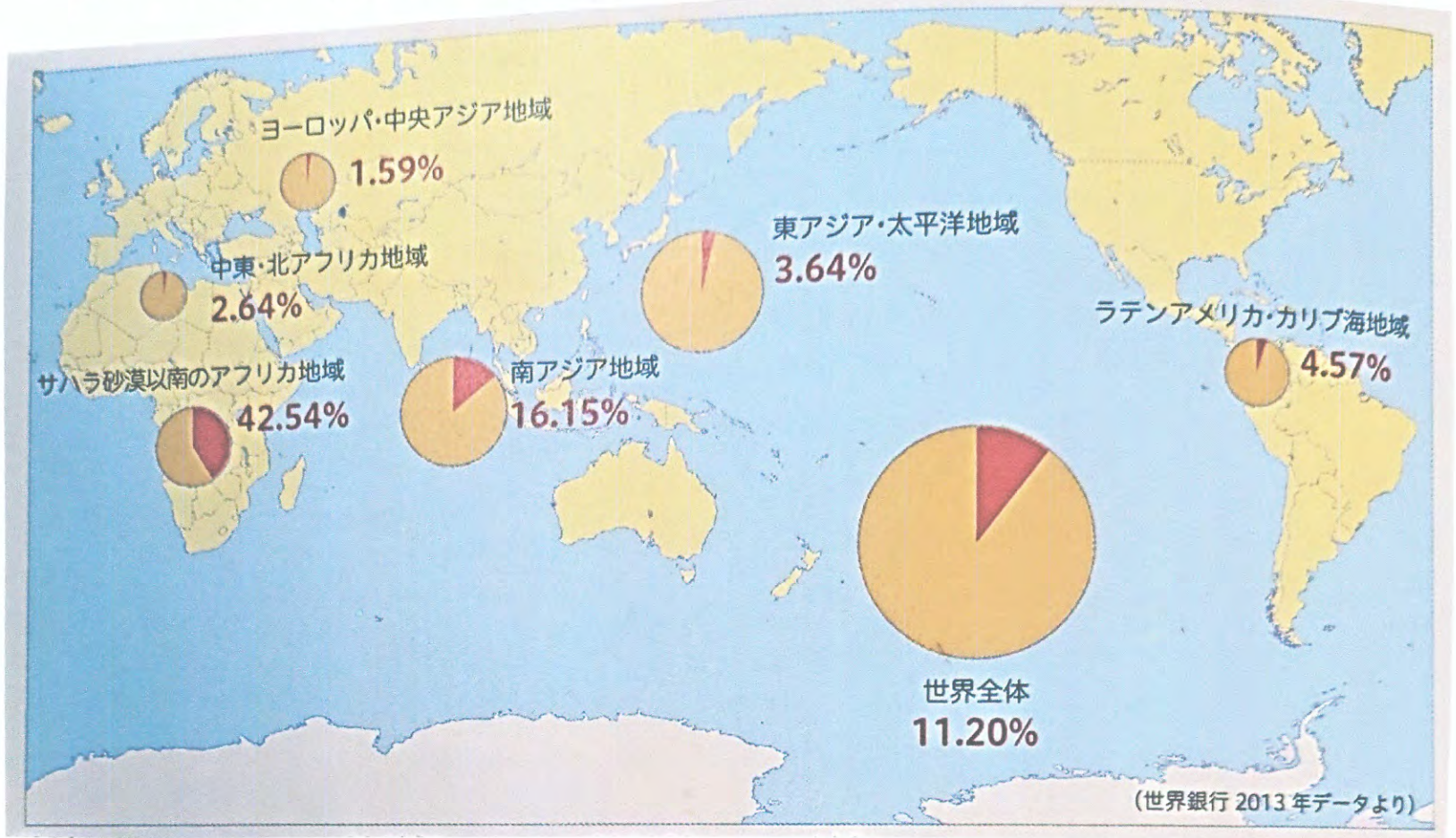
世界には複数の国にまたがって流れる川がたくさんあります。日本ではあまり報道されませんが、人口増加や水の無計画な利用、水質汚染などのさまざまな理由により、水不足が起こっています。その結果、同じ川の上流と下流の国で水をめぐり争いが起こっているのです。

アメリカの環境団体ペシフィック・インスティテュートによると、2010年～2019年の10年間で水をめぐり争いや暴力事件が466件も発生しています。最も多いのは中東のイエメンやイラク、シリアで、サハラ以南のアフリカのマリ、ケニア、ソマリア、南アジアのインドとパキスタンでも水をめぐり争いが起こっています。

紛争にはなにかしらの理由があるとは思いますが、水の取り合いで紛争になるとは思っていなかったのをおどろきました。また、栄養不足ではなく、どろ水を飲むしかなくて子どもが亡くなってしまうのはかわいそうだと思います。



「国谷裕子と考えるSDGsがわかる本」P10(3)によると、



世界銀行の報告によると、世界の貧困率(極度の貧困層の人口の割合)は1990年の36%から2013年は11.2% さらに2015年は10%も減少しました。SDGsに先立つMDGsの取り組みの効果もあったと考えられています。

世界の貧困層のうち、85%が南アジア、アフリカ砂漠より南の地域に住む人です(2013年)。 貧しい地域の多くが、かつて欧米諸国の植民地でした。旧宗主国(キョウソウレツコク; 植民地を支配した領土の国)は、植民地の資源や労働力をさく取る経済の構造を作りました。植民地にされた国は、第二次世界大戦後に次々と独立しました。しかし、それらの国々には、今でも欧米諸国とくらべて豊かとはいえません。

MDGsとは ③P88、②P22

2000年に「ミレニアム開発目標(MDGs)」という8個の目標を立てました。このとき課題をきちんと解決していくために、具体的なターゲットと指標をつくらせて検証できるようにし、15年という期間で組み立てていく枠組みができました。

目標1	極度の貧困と飢餓の撲滅
目標2	普遍的な初等教育の達成
目標3	ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上
目標4	幼児死亡率の引き下げ
目標5	妊産婦の健康状態の改善
目標6	HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止
目標7	環境の持続可能性の確保
目標8	開発のためのグローバル・パートナーシップの構築

植民地とは Gakken キッズネットより

政治的・経済的に他国に支配され、国家の主権をもたない地域。本国は植民地を原料・農産物の供給源として、また、商品・資本の輸出市場、低賃金労働力の供給源として支配する。

貧しい地域が多かった植民地で、低賃金労働などをさせられていたので、独立してもそれまでの暮らしがずっと続いてしまっているんだね。



「国谷裕子と考えるSDGsがわかる本」P14(131)のハンガーマップには2010年以降の紛争地域と自然災害が起きた地域が記載されています。



(国際連合世界食糧計画資料より)

SDGsの前身であるMDGsの取り組みにより、2000年から2015年の間に世界飢餓人口は、ほぼ半減しました。ところが、2018年の国連の報告によると、2015年からの3年間は、飢餓は増加しつづけて、10年前の状況に逆戻りしています。

この報告では、その理由を、紛争の長期化や景気の悪化に加えて、気候変動による洪水や干ばつなども主な要因になったとしています。「飢餓をゼロに」の目標達成には、気候変動への対応が必要です。

大規模な自然災害が地球温暖化で増えている [4] P.12

国連防災機関(UNDRR)によると、1980年~1999年の20年で発生した世界全体の大規模な自然災害は4212件でしたが、2000年~2019年の20年では7348件と約1.74倍に増え、123万人もの人々が亡くなりました。大規模な自然災害には、干ばつや地震、洪水、土すべり、山火事、火山の噴火などが含まれますが、UNDRRは7348件中の6681件が気候変動による災害と分析しています。

日本でも気候変動で洪水が起きて大変というニュースを見たことがあるけど、外国でも同じように起きていて、しかも、そのせいで仕事を失って貧困に陥ってしまうということは考えたことがありませんでした。気候変動への対応って大変なことだけど、できることからしっかりやっていかないと、いつかはみんな暮らしていけなくなってしまうかもしれないね。



5国の貧困理由を調べてみて...

これらの国の貧困の理由や暮らしをまとめているサイトがなく、調べるのが難しかったのですが、調べたどのサイトも支援団体が開発途上国の現状と支援内容を紹介するために作成しているもので、私たちに支援を求めていました。

そこで、開発途上国を支援している団体はどんな団体があるのか、どのような活動をおこなっているのか調べようと思います。

3 どんな団体がどのような支援をしているの？

そこで私は、どんな団体があるの？どんな活動をしているの？
年間どれくらいの金額なんだろう？
などを本やインターネットで調べようと思います。

どんな団体があるの？

2P26,27,28を参考に年間の支援額などはWEBページを参考に調べました。

＜国際機関＞

☆国際連合世界食糧計画 (WFP)



1963年設立。国連唯一の食糧支援機関で、世界最大の人道支援機関。世界から食欠食死と貧困をなくすことをめざしている。紛争や武力衝突、自然災害などの緊急事態が発生した際には、いち早く食料を輸送する。2100以上のNGOと連携し、毎年約80か国の8000万人以上に食料を届けている。

＜活動内容＞



サプライチェーン 国連WFPは日々、6500台のトラック、140機の航空機、20隻の舟艇を駆使して、食欠を防ぎ、最も必要とする人びとに重要な食料やその他の支援を届けています。60年にわたる経験をもとに、国連WFPは政府やNGO、サプライヤー+

地域社会と協力しながら活動しています。

出典 <https://ja.wfp.org/our-work#>

＜具体的な取り組み＞

2022年、国連WFPは2,000万人の子どもたちに栄養価の高い学校給食、おやつ、持ち帰り食料を提供しました。さらに、国連WFPは食料購入のための現金・電子マネー・食料引換券を配給する「現金支援」をこれまで以上に強化しています。2022年、国連WFPは約4900万人に計31億米ドルの現金を提供しました。

出典 <https://ja.wfp.org/overview#>

ホームページによると、2021年は必要額148億米ドルのうち96億米ドルが調達でき、52億米ドルが不足したとのこと。

この資金不足により、国連WFPの地域職員は支援対象者の選別や支援量の削減など、苦渋の決断をせまられているそうです。

出典 <https://www.jawfp2.org/annual/2021/>

★国際連合児童基金 (UNICEF)



1946年設立。第二次世界大戦で被害を受けた子どもたちに緊急支援をおこなうために設立された国際機関。それ以来、すべての子どもの命と権利が守られる世界を実現するために、「子どもの権利条約」を指針として、約190の国と地域で活動している。

〈活動内容〉

ユニセフは現在、7つの分野 (保健、HIV/エイズ、水と衛生、栄養、教育、子どもの保護、社会へのインクルージョン) で活動しています。さらに、災害・紛争が起きた地域への緊急人道支援、女子教育の推進を含むジェンダーの平等にも取り組んでいます。様々な活動を組み合わせることで、子どもたちの命と未来を守ろうとしています。

出典 <https://www.unicef.or.jp/about-unicef/>

〈収入〉

ユニセフの2021年の収入は81億2,200万米ドルでした。その中の日本ユニセフ協会からユニセフに拠出 (拠出) したユニセフ募金は、世界33のユニセフ協会 (ユニセフ国内委員会) の中で、米国に次ぐ2番目に多い額となり、1億8,700万米ドルとなりました。

〈支出〉

2021年度、ユニセフの支出総額は65億2,800万米ドルでした。

子どもの命と健康を守る支援プログラムを展開。支援プログラムに用いる通常予算は、最も支援を必要としている子どもたちに最優先に支援が届けられるよう、以下の3つの指標をもとに優先順位を判断した上で各国・地域に配分されます。

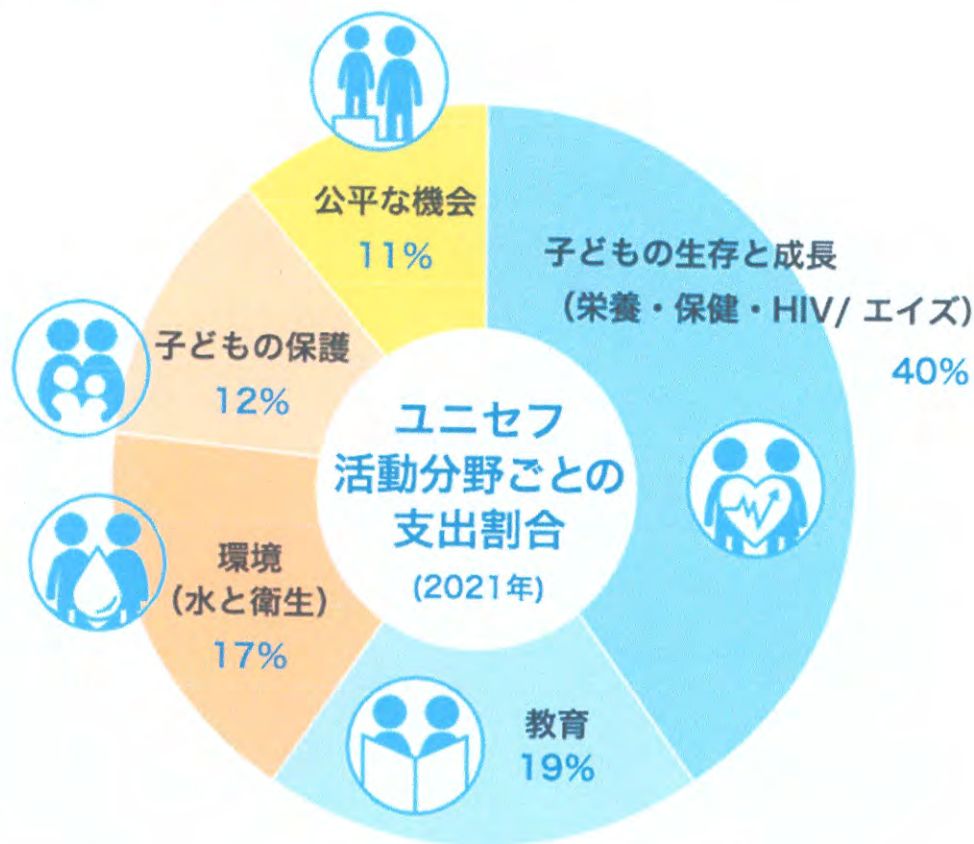
① 5歳未満児死亡率

(出生時から5歳になるまで死亡する子どもの割合。出生1,000人あたりの死亡数であらわす)

② 所得水準 (1人あたりの国民総所得)

③ 子どもの人口

直接プログラム支援のための支出内訳は以下の通りです。
活動分野別の支出割合(2021年)



出典 https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about-fin.html

★ 国際連合食糧農業機関 (FAO)



1945年設立。飢餓をなくすための国際的な取り組みを主導する国連の専門機関。開発途上国への農業開発を中心とした支援によって、栄養状態を改善し、農村部の人びとの生活水準の向上をめざしている。また、多くの機関と連携して食料と農業の問題に関して幅広い

研究をおこなう。

＜活動内容＞

FAOの機能を大きく分けると、①食糧・農業に関する国際的な検討の場の提供 ②世界の農林水産物に関する情報の収集・分析及び提供 ③途上国に対する政策的支援、技術協力の実施であり、食糧・農業に関する広範な活動を展開している。

＜分担金＞

① 予算(加盟国の分担金)(2か年予算、総額は総会で決定)

2020~2021年: 総額約1,006百万ドル

② 我が国の分担金額(2020年)

(ア) 分担金額: 約43百万ドル(約45億円)

(イ) 分担率: 8.57% (2019年国連分担率に準拠)

(注) 我が国は米国(分担率22%)、中国(分担率12%)に次ぐ第3位の
の分担金拠出国。

出典 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/fao/gaiyo.html>

☆国際農業開発基金(IFAD)



1977年設立。飢餓の貧困をなくすため、開発途上国に資金を融資することで、農業開発の促進、食料生産の増大、生活水準の向上をめざす国連の専門機関。アフリカの農業にかかわる機関としては世界最大。ローマに本部をおき、96か国で活動を

おこなっている。

活動内容

農村地帯の貧しい人々が食糧と栄養の安全保障を改善し、所得を増やし、経済的な回復力を強化できるようにすることに専念する。

172の加盟国から資源を動員し、低利子の貸し付けや無償資金を提供して農村開発を進める。

出典 https://www.unic.or.jp/info/un/unstem/specialized_agencies/ifad/

活動資金

活動の原資となる資金は、加盟国からの資金拠出に依っており、近年は3年に一度増資協議が開催され、以降3年間のプログラム目標やドナーの拠出規模等が決定されている。

2021年の事業総額38億ドル、拠出目標額15億5,000万ドル、わが国拠出額5,730万ドルで比率としては3.7%です。

出典 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/gic/page22-003308.html>

民間

☆公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



Save the Children

1919年にイギリスで、第一次世界大戦後の栄養不良に苦しむ子どもたちのため創設。子ども支援活動を

をおこなう国際NGO。「ジュネーブ子どもの権利宣言」を起草し、その理念は「子どもの権利条約」につながり世界に広がる。条約120か国で支援活動をおこなっている。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは1980年に設立された。

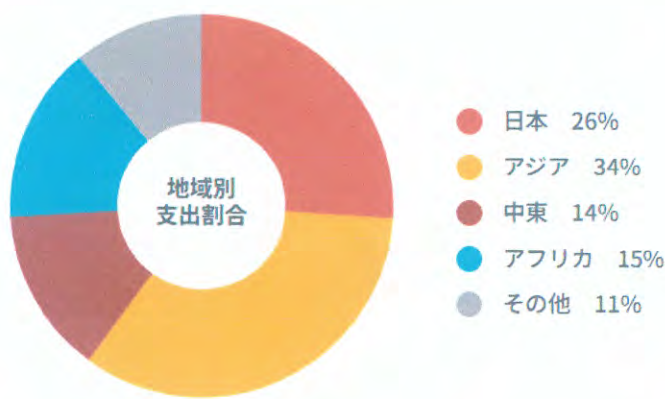
活動内容

日本をはじめ世界中で子どもたちを支援

海外では保健・栄養、教育などの分野で活動するほか、自然災害や紛争における緊急・人道支援を実施。また、国内では、子どもの貧困問題解決や子ども虐待の予防などに向けた事業のほか、東日本大震災や熊本地震における緊急・復興支援を通して、子どもの権利を実現する活動を行っています。

出典 https://www.savechildren.or.jp/about_scl/

地域別支出割合※



※海外援助費・緊急援助事業費・国内事業費・事業助成金等計1,143,317,484円

*地域別支出割合は監査を受けておりません。

2020年、44,869,099人の子どもに直接支援を届けました。

出典

<https://www.savechildren.or.jp/domestic/index>

★認定NPO法人 TABLE FOR TWO International



2007年に日本で設立。世界の食糧危機と食糧の問題を「日常生活の中で気軽に、楽しく参加できる」社会貢献プログラムで解決することを目指す。先進国で対象の食品を買った、開発途上国に1食分の学校給食費が寄付される仕組み。これまでに7000万食以上の給食を届けている。

活動内容

先進国で1食とるごとに開発途上国に1食を贈る「TABLE FOR TWO」プログラムを実施。肥満や生活習慣病予防のためにカロリーを抑えた定食や食品を購入すると、1食につき20円の寄付金が、TFTを通じて開発途上国の子どもの学校給食になる。

出典 <https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/network/case/case04.htm>

寄付金送金先一覧 (2022年1月~12月31日 単位:円)

提携機関	プロジェクト実施地域	送金金額
Kageno Worldwide Inc.	ケニア / ルワンダ	48,426,843
Ministry of Education and Vocational Training, Zanzibar	タンザニア	22,497,173
Imperial College of Science, Technology and Medicine	タンザニア	11,608,839
国際連合世界食糧計画 WFP 協会	アジア・アフリカ地域等	9,769,624
The Slow Food Foundation for Biodiversity Onlus	ルワンダ / ケニア / タンザニア ウガンダ / マラウイ / ザンビア	6,157,476
NPO法人 ACTION	フィリピン	2,309,890
Foundation for Irrigation and Sustainable Development	マラウイ	2,215,610

合計 102,985,455

出典

<https://jp.tablefor2.org/file/annualreport/TFT-annual-report-2022.pdf>

☆NPO法人 ハンガー・フリー・ワールド



hunger free world.

1984年に活動を開始。食飢餓をなくすことをめざす国際NGO。住民たちが自分のかで食料を得られるしくみや地域づくりに取りくみ、日本をふくむ5か国で活動する。

活動内容

HFWの活動はみなさまからの会費や寄付、補助金などで成り立っています。いただいたご支援は、開発途上国で食飢餓に直面する人々の自立のために役立てられます。また、食飢餓や食料問題、「食料への権利」について理解を広める国内外での啓発活動のほか、活動経費にも当てられます。

出典 <https://www.hungerfree.net/about/>

☆一般社団法人 日本国際飢餓対策機構



1981年に日本で設立されたモリスト教系の国際NGO。貧困と食飢餓をなくすことをめざす。アジア・アフリカ・中南米の開発途上国の30か国以上で活動する。

活動内容

日本国際飢餓対策機構は、日本からスタッフを食飢餓・貧困に苦しむ人々が暮らす地へ派遣して、現地の人々とともに生活しながら自立を支援しています。海外スタッフたちは派遣期間中、経済的、精神的に支えてくださる方を募り、活動地へ出て行きます。

◀日本の政府機関▶

☆独立行政法人 国際協力機構



日本の政府開発援助 (ODA) をにない、「信頼で世界をつなぐ」を目標として開発途上国の支援をおこなっている。2003年設立。前身は、1974年に設立された国際協力事業団。2018年度には、148の国や地域で年間872件のプロジェクトを進めてきた。

また、日本から開発途上国へのボランティア派遣事業 (青年海外協力隊) もおこなっている。累計約5万3000人が参加している。

◀活動内容▶

開発途上地域に対する技術協力の実施、無償資金協力の実施の促進、開発途上地域の住民を対象とする国民等の協力活動の促進に必要な業務等を行い、これらの地域等の経済及び社会の発展または復興に寄与し、国際協力の促進に資することを目的とする。

出典 https://www.mofa.go.jp/mofaj/ikaiko/oda/shiryo/04_hakusho/ODA2004/html/siryo/sh3150000.htm

支援団日本はこの世にもいるいるあるみたいで。いろいろ人々が世界から飢餓を無くすために努力していることがわかりました。

支援金がどれくらいなのかも高問べましたが書き方が難しかったりしてわからない団体もありました。でも 0億米ドルという支援金と書かれた団体もありました。日本円で考えるとものすごい金額 (1億米ドルだとして1ドル = 145円なら 14,500,000,000円) (145億円) を寄付しているのに、まだまだ支援が足りないと記載してあり、もう私には考えられないくらい支援が必要なんだと思っ、開発途上国などは本当に大変なことになっているんだなあと思いました。一日でも早く支援がいま届き、また、支援がなくても生活できるようにしてほしいと思いました。

④ 施設の見学をして考える

本やWEBサイトでいろいろ調べましたが、具体的に展示されており、解説してもらえる施設を見学すれば、もっと知識を深められると思い、本で紹介されていたユニセフのユニセフハウスとジャイカの地球ひろばを見学することにしました。

ユニセフハウスを訪れる



7月26日、ユニセフハウスに見学に行きました。

ユニセフハウスは「世界の子どもと出会う場所」というテーマになっていて、3つのゾーンに分かれていました。

くわしく話を聞きたいと思い、ガイドを申し込んだら、久保田さんが一斉に館内をまわりながら解説したり、考えたり、

アドバイスを下さいました。



ZONE1 では「ちがい」の中の「おなじ」に出会うようになっていて、世界中の子どもたちはみんな生まれた場所や育った環境が「ちがう」けれど、「おなじ」ことをする権利を持っている。ということもわかりやすく展示してありました。

◀ みんながおなじこと ▶



「うまれる」にはカウンターが設置されていて、リアルタイムで現在の人口がカウントされているそうです。

生まれるら増え、死亡したら減るそうですが、秒単位でカウンターの数字が増え続けていることに感動しました。



「たべる」には国や主食や食事の環境のちがいがあっても「たべる」という基本的な行為はみんな「おなじ」ということがわかりました。

「あそぶ」ということも、あそぶ環境せはやってあるあそびがちがっても、基本的にみんなあそびながら学ぶということが「おなじ」だと思いました。



「まなぶ」では、通学路や学校の環境の「ちがい」がありますが、子どもたちはみんな「まなぶ」権利があるということが「おなじ」だと思いました。



「？」では、いろいろな写真や動画が展示されていて、この「？」の中に何が入るのかを考えてみましょう。ということでした。すごく生き生きとして楽しそうな写真ばかりだったので「楽しむこと」と答えたのですが、正解は「自分らしく表現すること」でした。みんな「ちがう」性格で好みもちがっても「自分らしく楽しみたい」ということは「おなじ」で当たり前なんだなとあらためて感じました。

ZONE2 では異なる国や環境の中で生活する7人の子どもたちについて耳が上げられています。毎日どんな生活を送っているのかが展示されています。私は久保田さんの解説のもと、3人の子どもたちについて詳しく学びました。

水をいぶ子どもたち

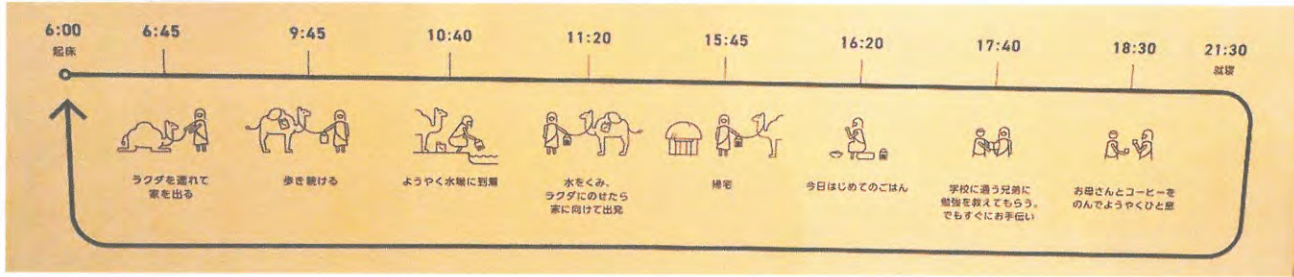
国：エジプト 名前：Aysha アイシャ



川や池などの安全ではない「地表水」をそのまま使っている人は1億2200万人います。

世界の子どもや女性が水をいぶのために費やしている時間の合計は1日あたり2億時間以上だそうです。

アイシャさんの1日



<私が考える問題点>

① 汚れた水を飲みげりを起こす。そうすると脱水症になる。十分な知識や医療がないためか、命を失う危険性がある。

➡ きれいな井戸水や水道が飲めたらゲリで命を失わなくて済む。

② アイシャさんは朝6時に起床、片道4時間かけて水場へ行き、帰宅にまた4時間かける。

➡ もし水場(井戸や水道)が近くにあったらこの8時間は別のことに使えたのではないかな?

③ 16時20分に今日初めての食事をとる。(一日一食のみ)

➡ 食事をとる時間がないのか? 貧困で食糧を買えないのか?

④ 水くみは女の仕事(兄弟は学校に通っている)ジェンダー不平等。

➡ 女生にも教育を受ける権利があると思う。



この水がめはネパールで実際に使われているものと
同じもので、真ちゅうでできているそうです。

(5円玉と同じ素材)

水がめだけで2kgほどの重さがあり、中に約13kg

の水を入れると約15kgの重さになります。これを何
日時間かけて歩いては2倍のが仕事の一つだそうです。

実際祭に水の入った水がめを持ち上げてみま
したがとても重く、これで1日時間歩かなければ

いけないと思うと早くこの問題が解決されるといい
と思いました。

私が考えるSDGsの目標



教育を受けられない子どもたち～紛争と子ども

国: シリア 名前: Saja サジャ



最低限の読み書きが出来ない子ども。若者が6億人、学校に通えていない子どもは3億人以上(その3分は紛争土壌など)いるそうです。

また、紛争土壌では子どもの殺傷、子どもの利用、学校や病院への攻撃、性的暴力、子どもの拉致(らち)、支援の妨害(ぼうがい)などで子どもの権利が侵害されています。

<私が考える問題点>

① 紛争が起こる → 家族を失い、体の一部も失った。

➡ 紛争を起さないと話し合いで解決できれば家族も体の一部も失わなくて済んだのかもしれない。

② 紛争が起こる → 学校が爆破されて壊れたり、避難所などに使われることで教育を受ける機会を失う → 夢をかなえられないかもしれない

➡ 紛争が起きなければ教育を受けつづけたらと思う。



左の写真は紛争地と緊急人道支援を必要としている人数です。
 数値・データは2022年時点で確認できたもの。ウクライナの情報は2022年7月末現在のものだそうです。
 世界中の主な紛争地域だけでも8,480万人の子どもたちがさまざまな危機に直面しています。

私が考えるSDGsの目標



栄養不良の子どもたら

国: 南スーダン 名前: Adut アジュ



アジュちゃんにはマラリアにかかり、ひどい栄養不良になりました。しかし、ユニセフが支援する栄養センターに行くと栄養治療食をもらえ、体重が増え元気になりました。

2019年1月から7月までの間にユニセフは南スーダンで14万4,000人の重度の急性栄養不良の子どもたちを治療したそうです。



うでの糸細さと体重をはかる



発育グラフ



栄養治療食はビーツの味らしい



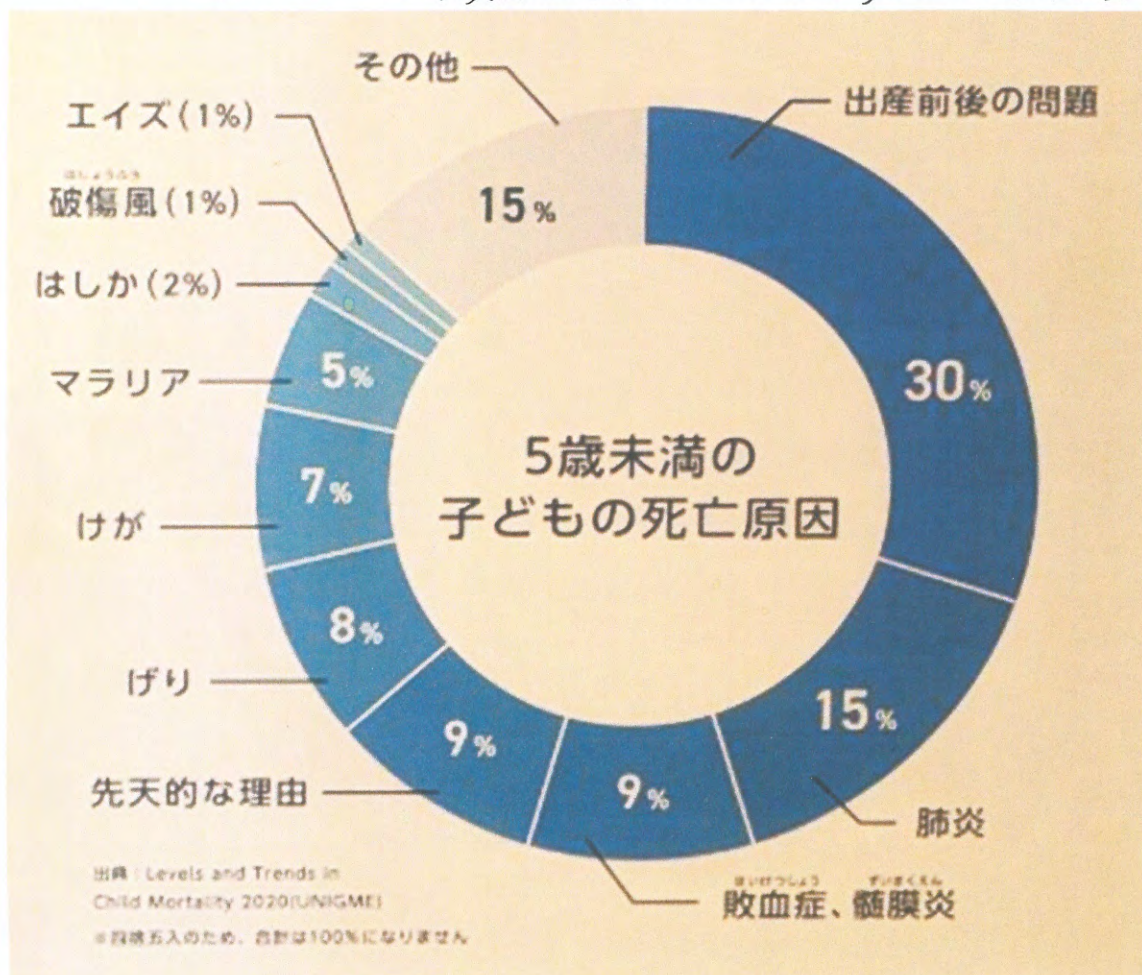
栄養治療センターにはビタミンAカプセルや経口補水塩、栄養治療食の他にもワクチクや必要最低限の医療品がそろっていました。

世界では6秒に1人、5歳になる前の子どもが命を失っています。死亡のおよそ半数は栄養不良が関係しています。

栄養不良の状態だと病気や感染症にかかりやすく、回復しづらくなるからです。

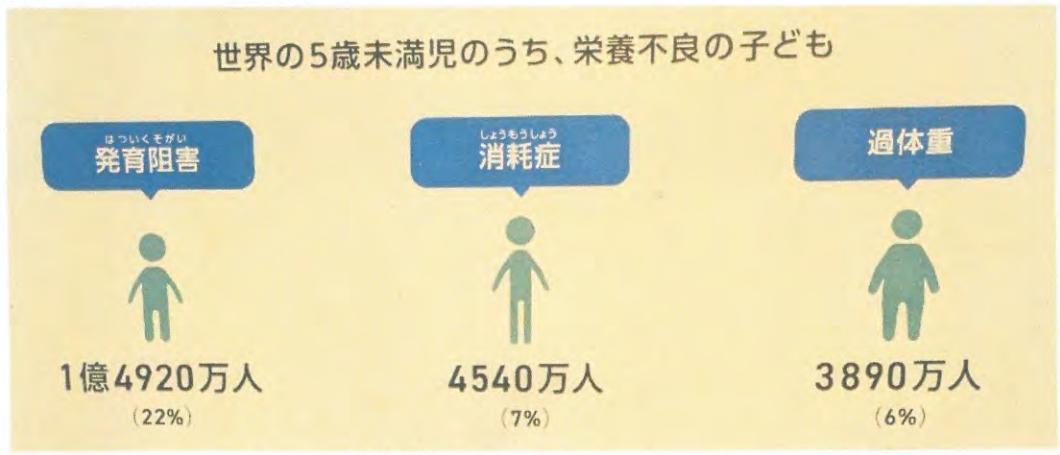


下のグラフは「5歳未満の子どもの死亡原因」です。



私たちの国では、破傷風、はしかは予防接種でふせぐことができます。出生前後の問題や肺炎、げり、けがは病院で治療を受ければ治せる可能性が高いのに、住んでいる環境のちがいで命を落としていると思うと悲しくなりました。

5歳の誕生日を迎える前に命を失う子どもたち。その原因のおよそ半分に栄養不良が関係しています。子どもたちの栄養不良の状態は、大きく分けて「**発育阻害**(はついくそがい)」「**消耗症**(しょうもうしょう)」「**過体重**」に分類することができます。



「**発育阻害**」とは日常的に栄養が足りていない状態で、年齢のわりに身長が低く、脳の発達が遅れることもあります。

「**消耗症**」は、急激に栄養不足が進んだ深刻な状態です。やせ細って、病気にかかりやすく、命を失うこともあるため、緊急の治療が必要です。

一方、標準より体重の重い「**過体重**」の子どもも増えています。値段が安く高カロリーですが、栄養価の低い加工食品が広まったため、特に貧しい家庭の子どもたちに増えています。

＜私が考える問題点＞

子どものときに**栄養不良**になると、**身体や脳が十分に発達するチャンス**をうしなわれ、その子の**将来を**もおびやかすそうです。

「**過体重**」の子どもという、先進国などの豊かな国で必要以上のカロリーを摂取しお菓子の食べ過ぎや一人前以上を食べるなどの栄養をとりすぎた子どもなのかと思っていました。値段が安くお腹いっぱいになる**栄養価の低い加工食品**だけ食べているのは心配になるけど、**貧困で**日に使える金額で買えるものが**こういう加工食品**しかなかったら毎日ありがたく食べ続けるよね。その結果が「**過体重**」だとしたら、もっと**栄養価の高い食品**が買えるような生活を送れるようになる**支援**が必要だと思いました。

私が考えるSDGsの目標



ユニセフハウスを見学してわかったこと①

- ・慢性的な栄養不良状態の子ども... 1億4920万人
- ・5歳になる前に命をうしなう子どもは1日... 1万4000人
- ・安全な水を使えない人... 20億人
- ・18歳になる前に結婚した女の子と女性... 6億5000万人
- ・障害のある子ども... 2億4000万人
- ・学校に通えていない子ども... 3億人以上
- ・紛争下で暮らしている子ども... 2億5000万人(推定)
- ・エイズで親をうしなった子ども... 1540万人(推定)
- ・学校に通えず仕事にもついていない若者... 女性 4人に1人
男性 10人に1人
- ・心の病気を抱える子ども(10歳~17歳)... 7人に1人
- ・気候変動によるリスクが非常に高い国に住む子ども... 10億人

これらに対してユニセフは世界の子どもたちが生存し、健やかに成長できるように他の国際機関、政府、NGOなどと協力しながら、**教育**、**保健**、**水と衛生**、**保護**、**緊急支援**、**アドボカシー**などの支援活動を行っています。





ユニセフハウスを見学してわかったこと②

1946年、第二次世界大戦の後、戦争で被害を受けた子どもを助けるために国連の総会でユニセフがつけられ、戦災国で支援活動を始めたそうです。1949年には日本でも支援活動が始まり、給食用のミルクや月服をつくるための糸、薬などの支援を受けていたそうです。この粉ミルクは脱脂粉乳で「ユニセフミルク」と呼ばれていたそうです。戦後、物の値段が70倍にもはねあがり、あらゆる物が不足していた時も、家庭に配られた支援物資が闇市などで売られてしまうこともあったため、「学校給食」というかたちで自己給養されることになったそうです。

ユニセフはユニセフミルクの配給にあたり、定期的に成長の記録を取ることを求め、栄養と成長の相関関係を目に見える形で示したそうです。その結果、ユニセフミルクの配給を受けた学校の子どもたちと受けなかった子どもたちの成長の傾向にはあきらかな差が認められ、ユニセフミルクは学校給食の発展の大きなきっかけになったそうです。

このユニセフハウスをガイドしてくださった久保田さんはユニセフミルクを飲んで育った世代とのこと、ユニセフに恩返しがしたいという気持ちから今ユニセフで働らかれています。そして、その久保田さんが私の祖母と同じくらい世代と話されていたことから、私の祖母にもユニセフミルクのことを聞いてみました。



私の祖母は終戦の一年前に北海道で生まれました。祖母は赤ちゃんのため、戦争のことは全く覚えていないそうですが、空襲が北海道にもあったと母から聞いたそうです。

幼少期だったため、戦後の食糧不足などは記憶にないそうですが、学校の給食に粉ミルクが出ていたことを覚えていました。

それがユニセフからの支援だったことは私の話を聞いて始めて知ったそうです。粉ミルクの味は美味しいとはとても言えませんでした。この粉ミルクのおかげで元気に成長できたのだと思うとユニセフにはとても感謝していると話していました。

今回ユニセフハウスを見学したことで、私の日常生活が「当たり前」だと思って過ごしていたことが、イセの国では「当たり前」ではないということを知り、私はとてもめぐまれた環境で育て幸せなんだということに気が付きました。

しかも、今の日本は豊かで幸せな国ですが、昔は戦争で負け、いたるところが焼きつくされ、配られる配給も少なく、ユニセフに支援をしてもらうくらい貧しい国だったということを知りました。しかし今は支援する側にまわっていることも知り、これはユニセフの支援で元気になった祖父母世代の人たちが一生懸命働いて私たちにプレゼントしてくれた豊かさだと思いました。

だから、今支援されている開発途上国の人たちも、いつか自分たちの力で自立した生活を送れるようになり、今の日本のように支援する側にまわれるような元気な国になってほしいと思いました。

JICA 地球ひろばを訪れる



8月19日、JICA地球ひろばに行きました。
JICA地球ひろばは事前に予約することで、海外協力隊として実際に開発途上国で活躍された方から現地のお話を聞くことができます。

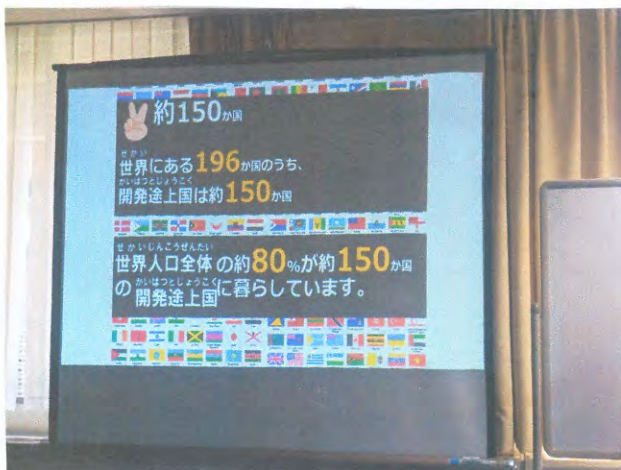
今回私にお話しを聞かせて下さったのは、アフリカのモザンビークという国で活動された方で、スライドショーを使って活動内容などを説明して下さいました。

名前：鈴木さん

活動期間：2018年～2020年

活動場所：モザンビーク

活動内容：ソーシャルワーカーとして障害をもつ人たちの団体で活動



今、国連が承認されている国の数は196か国、そのうち開発途上国は約150か国です。
世界人口全体の約80%が約150か国の開発途上国に暮らしています。



開発途上国とは普段私たちが当たり前に行っている生活を行えない国のことです。

例えば...

- ・栄養のある食事
- ・学校へ行って学ぶ
- ・スポーツをする
- ・バヤすぐ家がある
- ・お風呂で体を清潔にする
- ・旅行や趣味などを楽しむ
- ・病気になったら病院へ行く
- ・薬を飲む



今回訪れたJICAとは独立行政法人国際協力機構で

Japan (日本)
International (国際)
Cooperation (協力)
Agency (機構)

の頭文字を取ったものです。

JICAの取り組みは

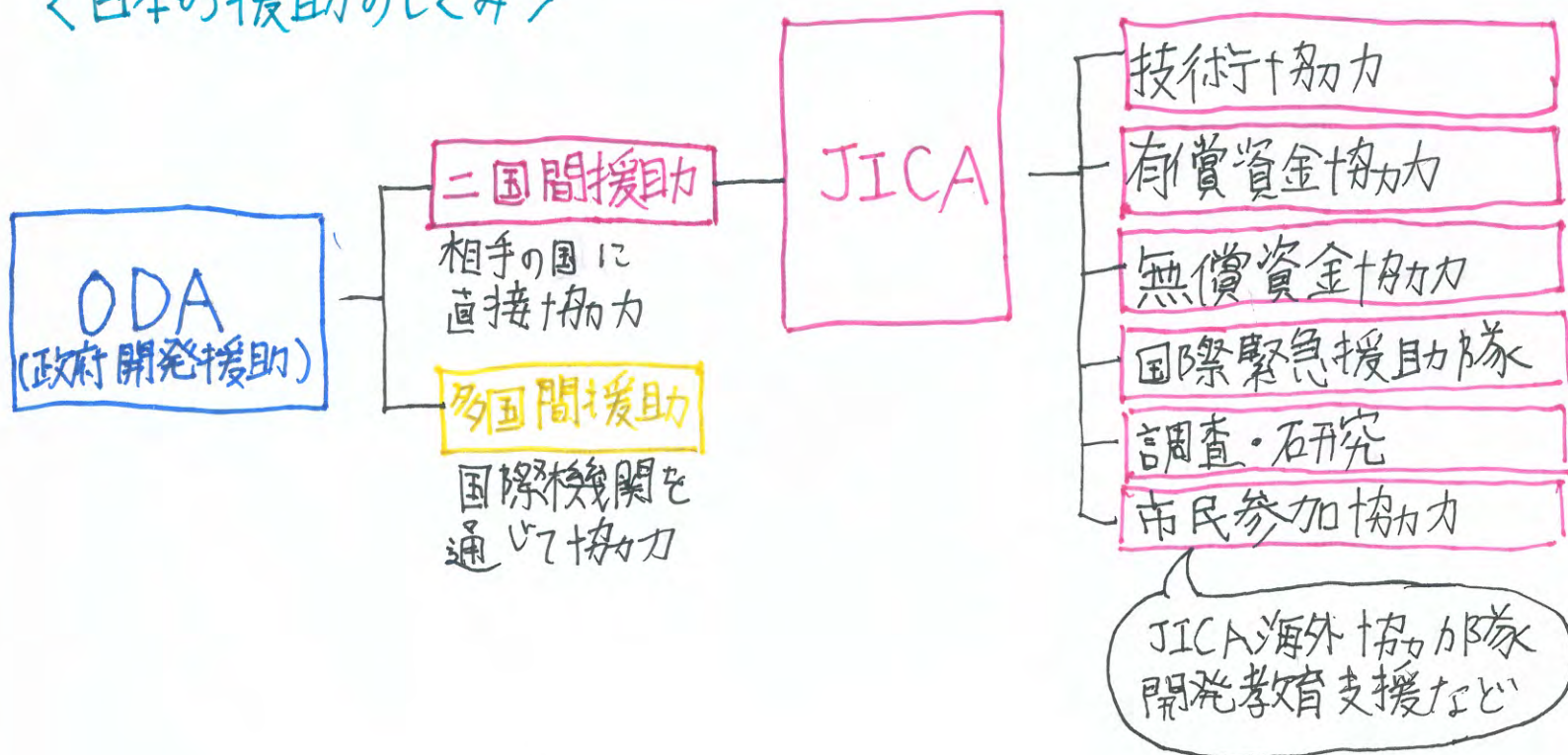
- お金をあげる(無償協力)
- お金を貸す(有償資金協力)
- 人を通じて技術进行を伝える(技術協力)

専門家の派遣・研修員の受入れなどを行っています。

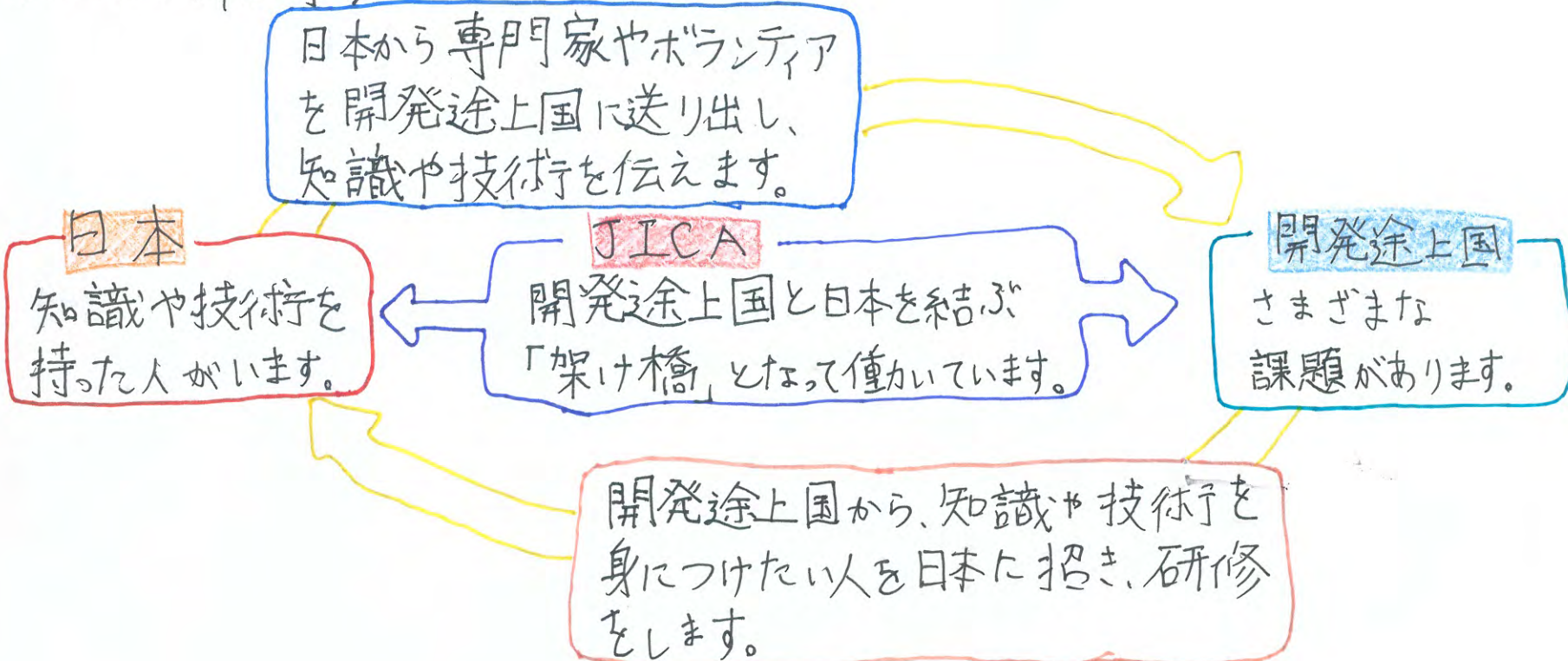


専門知識や豊かな経験を持った日本の専門家を開発途上国に派遣したり、開発途上国の将来を担う人々を日本に招いて研修を行ったりして、開発途上国の人材育成、制度構築に協力する「技術協力」、経済や社会の発展と安定をもたらす基盤を整備するための資金を緩やかな条件で貸し付ける「有償資金協力」、所得水準が低い開発途上国に対して、教育、保健、運輸分野などで必要な資金を返済義務を課さずに提供する「無償資金協力」。これらを組み合わせて効果的な協力を実施しています。

<日本の援助のしくみ>



< JICAの仕事 >

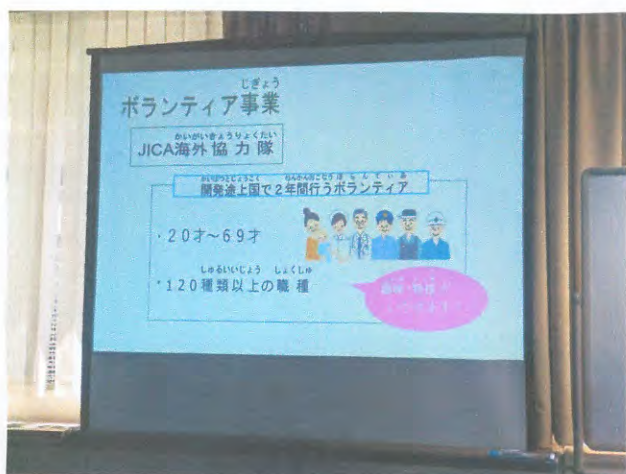


なぜ日本は国際協力をするの?
それは第二次世界大戦後日本も援助力を受けていたからです。

東海道新幹線 東名高速道路 は戦後世界銀行から有償資金協力してもらい作られたもので、この資金は1990年に世界銀行へ返還されているそうです。このような支援をしてもらい、

現在先進国となったので、今度は支援する側にまわっているとのことでした。

また、現在の日本も開発途上国の人びとが作ったものも多くあります。つまり、日本も開発途上国の人びとに支えられているのです。



JICAのボランティア事業には「JICA海外協力隊」というものがあります。開発途上国で2年間行うボランティアで、20歳~69歳までが参加でき、120種類以上の職種があります。今年の7月3日まで募集していた時は190種類あったそうです。

このボランティアの募集情報はJICA海外協力隊のウェブサイトを確認できます。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/>

私が習っている習字は職種にはありませんでしたが、世界に日本の文化を伝えるのにとっても良いものだと思いました。

青年海外協力隊は1965年に、日本の青年による海外ボランティア
事業として誕生しました。第二次世界大戦後、イギリス、フランス、オランダ
などの植民地から独立したアフリカやアジアの国の人びとの生活が良くなるように、日本の青年を派遣し、国造りへの協力を開始しました。
青年海外協力隊のほか、シニア海外協力隊、日系社会海外協力隊
などと合わせ、「JICA海外協力隊」と呼ばれています。

20歳～60歳までの日本国籍を持つ方が対象で、派遣期間は
原則2年間です。これまで90か国に5万人以上を派遣しています。

ここでは鈴木さんのモザンビークでの体験談を聞かせて頂きました。



モザンビークはアフリカ大陸にあり、大きさは日本の約2倍、人口は約3036万人
で日本の約1/4です。首都マプト市はそれなりに栄えていてちょっとしたショッピング
モールのようなものもあるそうです。しかし、郊外へ行けばこんな感じで人びとの
移動は基本的に徒歩だそうです。



日本円で20円あればシャッパ(乗り合いバス)に乗れたり、ちょっとしたご飯
(パン18円 バシ1つ1円くらい)を買えたり、20円～30円でマンゴ、セバナナ
(次のページの写真にあるこのひと及さ)、トマト、レタスなどの野菜や果物も買う
ことができるそうです。

しかし、栄養バランスなどの知識がなく、炭水化物の摂取が多いそうです。



パンとバジレ



バナナ



マンゴー

鈴木さんの活動がソーシャルワーカーで福祉施設での重労働だったこともあり、支援は食料や衣料、教育などが優先となるため、福祉に補助が入るのはどうしても後回しになってしまうため、鈴木さんがかかわっていた地域住民の生活は日本の戦後と同じくらいの状態の貧困で食事は1日1回のように、とにかくみんなが明るくあたたかく、助け合いが当たり前の生活で、複数の家庭が集まって食事を作ったり、食べたりしていたそうです。 おもてなしをするのが大好きで、貧困であってもお客さんをまねいては家にある食べ物や飲み物を出してくれたそうです。



モザンビークは過去に植民地世になっていて、その後紛争が起きたため、地雷で手や足を失った人や、ポリオ(日本だったら予防接種で防げる病気)で半身マヒになったりした人は働く場所がなく、一日中家の中にいる生活となることが多い、そのため貧困になってしまう人も多いそうです。

~人間の安全保障展~ 世界を知る! 世界を変える!



JICA地球ひろばでは現在「人間の安全保障展 世界を知る! 世界を変える!」を開催しています。この展示も鈴木さんに解説して頂きました。

〈人間の安全保障系者方貞子〉



「人間の安全保障」とは、世界のすべての人々が安全に安心して生きることができ、さらにその生活が人間らしいものであることを目指すものです。人々、特に最も弱く、状況に置かれた人々を中心に考えているのが人間の安全保障のひとつです。

人間の安全保障が目指すもの

欠乏からの自由・恐怖からの自由・尊厳をもって生きる自由

「人間の安全保障」は、人々が紛争やテロ、犯罪、自然災害、感染症の「恐怖」から自由になること、また、貧困、栄養不良、教育、保険などの生きる上で必要なものの「欠乏」から自由になることを目指します。

さらに人々が単に生存するだけでなく、個人や社会の潜在能力を伸ばし、自由と可能性を実現すること、言い換えれば「尊厳」をもって生きる自由が保障された社会を目指していきます。

「人間の安全保障」という概念は1994年国連開発計画 (UNDP) が取り上げて注目されました。2003年に「国連人間の安全保障委員会」が報告書「Human Security Now (安全保障の今日的課題)」をまとめました。委員会の共同議長のひとつだった緒方貞子 (おかたさだこ) さんは、その後 JICA 理事長に就任、それ以来 JICA は人間の安全保障の実現を目指して国際協力を実施しています。

貧困



開発途上国の説明は省略します。

公益社団法人味の素ファンデーション (TAF) は「ガーナ栄養改善プロジェクト」を実施しています。

ガーナ共和国において、離乳期の子供の健全な発育のために現地の離乳食「KOKO」に不足しがちな栄養素を配合した食品「KOKO Plus」を開発・活用し、栄養状態の改善に貢献する事業モデルを作るプロジェクトです。

この製品のよいなと思った点は、



生産 現地の原料を使い、現地企業と現地で生産していること

教育 この食品を手にするお母さんたちに正しい栄養知識を持ってもらうために講習をしている

販売 都市部では小売店が、農村部では村のセールスレディがお母さんに販売している

研究開発 現地食品生活に合う味づくり、健全な発育に役立つ配合

これらの研究開発・生産・製造・教育・販売などすべてをガーナ共和国で行うことで、地域住民の仕事の活性化にもつながっていることです。

〈保健医療〉



保健医療のコーナーでは現地医療の紹介も、へき地にはドローンで医薬品を郵送していることなどの他、母子手帳長の普及活動力について紹介されました。

母子手帳とは

妊娠初期から乳児期まで母子が共に継続ケアを受けるための健康記録で、1948年、戦後の復興のさなかにあった日本でつくられ、劇的な母子死亡率の減少にこうけんしたそうです。

日本で生まれた母子手帳は、世界約40か国に広がり各国の実情に見合ったかたちで、日本を含め毎年およそ1000万人の母親に手渡されています。

母子手帳は妊娠・出産に関する保険教育に役立てられているだけでなく、母子が必要とする栄養についての大切な情報提供にも活用されています。

私のお母さんも第一子の私を出産した時、わからないことが多すぎて母子手帳を何回も読んだと言っていました。



特に開発途上国の母子手帳は、文字の読めない母もいるため絵を多くして絵を見ただけでも分かりやすい工夫をしているそうです。

母乳育児の大切さが記載された母子手帳が配布され、正しい知識が母親に伝わると、完全母乳率がすごく上昇したそうです。



母子手帳導入前



母子手帳導入後

母乳には母の免疫がはいっているから、ミルクより母乳をあげたほうがいいと聞き、私のお母さんも母乳育児を頑張ったと聞きました。



また、2008年にはパレスチナ難民に向けて母子手帳アプリも開発されたそうです。これは、UNRWA保健センターに通う母親の80%以上が、パソコンやスマートフォンによってインターネットにアクセスできることと、紙の母子手帳を紛失しても、データベースを元に避難先移住先で受診が継続できることで、とても活用されているそうです。

水

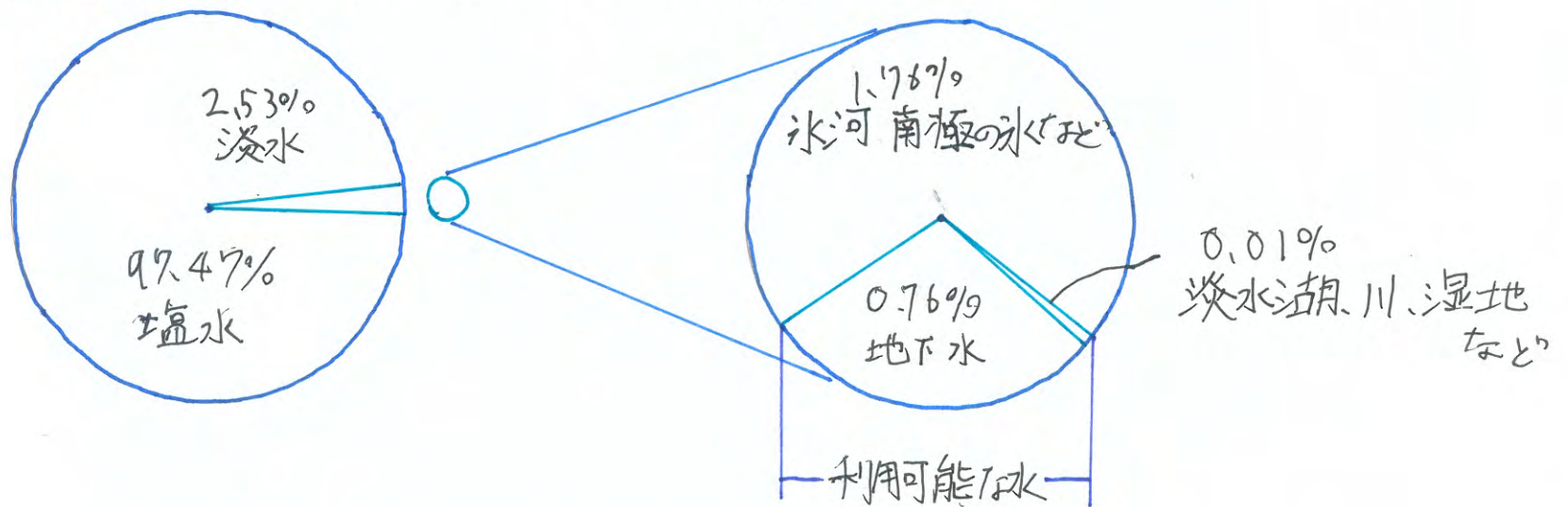


地球は水の惑星と呼ばれるくらい水の量が多いですが、実は地球上で人間が利用できる水はわずかたさうです。地球上の水の97.47%は海水などの塩水で、これは飲むことも作物を育てることに使えません。

残りの2.53%が淡水ですが、そのうち1.76%が氷河や南極・北極などの氷なので、これも使えません。

残りの0.76%が地下水で、淡水のうち人間が利用しやすい河川や湖沼(こしょう)に存在する地表水は水全体のわずか0.01%とされています。

なので、川や湖などの淡水の量は、地球全体からみると、わずか0.01%ほどしかたないさうです。地球の水全体をお風呂一杯の水に例えると、おあさじ2杯くらいにたかならないさうです。



また、鈴木さんの活動していたモザンビークでも郊外では2時間くらゐ歩かなければ水を手に入れない場所もあつたさうです。地域によっては雨水を貯めて暮らしている民戸所や、都心で水道があつてもしょっちゅう断水するため、必ず家の中で貯水して断水に備えているさうです。



LIXILは新興国向けの簡易トイレ「Sato」を開発し、衛生環境を改善したさうです。

教育



日本では義務教育という制度があり、小中学生は学校に通うことが義務となっています。

しかし、世界では6,700万人の子どもが学校に通えていません。

学校に通えても、4人に1人は卒業前に退学してしまいます。

特に女の子は男の子に比べてその割合が高くなっています。

その原因はさまざまで...

家がまずい

- 学校に通うお金がない
- 僅かでも家計を助けないと行けない
- 弟や妹の世話をしなくてはならない

学校の問題

- 学校がとても遠い
- 設備が整っていない
- 自分の言葉と授業で使われている言葉がちがう

社会の問題

- 先生の成り手がいない
- 戦争に巻きこまれた
- 親が学校の必要小生を認めない
- 病気や障害などがあり通えない

などがあるそうです。



モザンビークでは小学校への入学率が2007年には68%でしたが、現在は97%と改善されているそうです。しかし、小学校の卒業率は45%と低い状態だそうです。

小学3年生の習熟度は読み書きが4.9%、算数が7.7%と目標とする学力に達成できている子はごくわずかだそうです。

その原因として、水くみやお手伝いなどで授業を休むと勉強についていけなくなったり、ノートがなく、黒板のようなものに書いたら直ぐに消さなければならぬこと、教科書は使いまわして家庭学習できないこと先生がきちんと教えられなかったり、そもそも先生が足りなく学ぶ環境が整っていないため、学校へ行けても相應の勉強ができないからだそうです。

学校へ通えないとどうなるの？

- ・文字の読み書きが出来なくなる
- ・計算することが出来なくなる
- ・自分で選択や決定が出来なくなる
- ・権利や利益を守れなくなる
- ・つきたい仕事につけなくなる
- ・貧しさから抜け出せなくなる

下の写真は外国の文字で書かれているので私には読めません。文字が読めないと、損をしたり正しい薬も飲めないということを体験展示で学びました。



だから、自分の気持ち伝えることや未来のためにも勉強することはとても大切なことだなぁと思いました。

紛争



世界ではいまだに至るところで紛争が起こっています。そして、紛争から逃れるために故郷を追われた人々を難民といいます。

この難民の半数近くが18歳未満の子供たちで、親や保護者とはぐれしんでの過半難民をしいられることもあります。



火暴弓弾や地雷などで体の一部を失ったり、当たり前前の生活を送れなくなるから紛争は本当に無くなってほしいと思いました。

相互依存



世界は助け合って生きています。日本は特に食品の生産量が非常に低いです。このコーナーの展示では、私たちが普段食べている食事のどれくらいが世界の他の国から輸入されているのかなどを学んだり、もし世界の他の国から食料品を輸入できなくなったら、私たちの食事はどうなってしまうのか? を知ることができました。開発途上国からたくさんの食料品が日本に輸入されていました。



毎日がこんなにさびしい食事になってしまうと思うと、開発途上国の方たちに感謝しないといけないと思いました。



地球ひろばの通常展示

通常の展示室ではSDGsとは何かをパネルや映像やパズルなどで楽しみながら学ぶことができます。

世界各国のSDGs達成状況を確認できる装置がありました。

- ・民間の研究機関が17の目標について、166カ国のデータを集め、各国の達成状況を評価したものです。
- ・各目標の達成状況は **緑** **黄** **オレンジ** **赤** **グレー** で表示されます。
- ・各国の課題を明確にし、取り組むべき優先事項を定めるのに役立ちます。

- 緑** : 目標に達している
- 黄** : 努力を要する
- オレンジ** : より一層の努力を要する
- 赤** : 達成までいまだ遠い
- グレー** : データ不足により測定不能

出典: ベルテルスマン財団・持続可能な開発ソリューションネットワーク



日本は166カ国中何位でしょう? という鈴木さんの問いに、私はすごく悩みました。日本は達成できていなさそうなものがいっぱいあるからなー。100位くらい? と答えましたが正解は21位でした。意外と上位なんだ! と思うところと、それでも赤やオレンジがたくさんあることにおどろきました。そしたら、1位はどんな国なんだろう? と思い探してみました。フィンランドでした。全体的に緑と黄色が多めですがそれでも赤やオレンジはあるんだなあと思いました。じゃあ、最下位はどんな国だろう...。それは開発途上国の南スーダンでした。14のグレーは南スーダンに海がないからだそうです。12が黄色、13が緑なのはいろいろなものが豊かでないぶん、むたが使いをしていないから、というのがあります。

3時間くらいの滞在でしたが、とても勉強になりました。

5 私とその人たちの暮らし方の違いについて考える

それでは、私と開発途上国の人たちとの暮らしにどんな違いがあるか考えようと思います。せ、かくユニセフハウスで開発途上国に住む子どもたちに出会ったので、その子たちと比べてみようと思います。

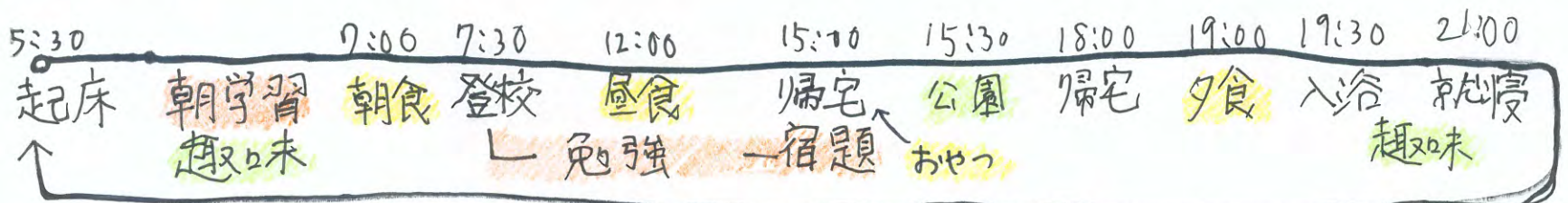
水くみのお手伝いをするアイシャさんの一日



早朝から往復8時間かけて水くみをし、一日の大半を費やしてしまいます。学校に通う兄弟から勉強を教わっていても、すぐに家のお手伝いで口ずはれてしまいます。

ここにはジェンダー差別もあります。女性は学ぶことより家事を手伝わなければいけないからです。でも、アイシャさんの家庭ではそれが当たり前になっていて、そのことに誰も疑問を持たないみたいです。

私の一日



平日は毎日学校へ通い勉強をします。帰宅すると習い事や塾に行く子もいますが私は仲良しの友達と公園で遊ぶことが大好きです。

学校の勉強は好きな教科や苦手な教科があり、勉強は決して楽しいわけではありません。

日本では教育を受けることが義務であり子どもはみんな学ぶ機会を平等に与えられていますが、逆に学ぶことが「当たり前」になることで嫌だなあと思うこともあります。

勉強や宿題・テストに追われなくていい生活なんてうらやましいと少し思いますが、勉強をしないと字を言読むこともできないし、計算することもできるようになりません。

当たり前に字を読むことも計算することもできなかったら、当たり前の日常（読書をしたり、計画を立てたり）を送れなくなると思うと、教育を受けさせてもらっていることに感謝したいといけないと思いました。

では私とユニセフハウスで出会ったろくの子の生活の中での違い、私にあって彼女たちにはないものについて考えました。

私にあってアイシャさんにはないもの

友達と遊ぶ時間・勉強・十分な食事・趣味を楽しむ

私にあってアジュちゃんにはないもの

栄養・高度な医療

私にあってカジちゃんにはないもの

全部あったのに紛争によって奪われた！

でも、映像の中のカジちゃんはやる気や希望に満ちあふれていました。苦しみや悲しみを乗り越え希望を持つカジちゃんを知り、私にもっと自分の将来を考えたいといけないと思いました。

6 これから私たちはどうしたらよいのか?について考える

まず、一番大切なことは現状を知るということだと思いました。

今の私の暮らしている環境はテレビやゲームやSNSなどの楽しいことが沢山あって、自分が欲しい情報はばかりに目を向けてしまい、欲しくない情報を知る機会がありません。テレビやCM、インターネットで見たとしても、次のものが台まるとやはり自分の興味あるものにひかれて忘れてしまいます。

だから私は今まで世界にこんなに飢餓で苦しんでいる人たちがいるとは思いませんでした。でも調べてみると、私の想像以上に多くの人が貧困や飢餓に苦しんでいて、多くの支援を必要としていることがわかりました。

ここまで調べてきてかわいそうだと思った事は、飢餓や貧困の理由の多くは紛争が原因でいつも通りの日常を過ごせないことです。

また、紛争が原因ではない(もしくは紛争が終ったあとの)地域でも、地球温暖化の影響で仕事を失ったり、水が湧かなくなったり、学校が近くにならなったり、ジェンダー不平等で学校に通わせてもらえなったりと、生まれた国や地域、家庭の違いで、子どもたちの生活の違いが大きいと、すぎると思いました。

そして、学校に通えないということは、必要最低限の知識がつかず、文字が読めなかったり、計算ができない生活を送るうえでも困るし、仕事にも就けないため、さらに貧困になるということがわかりました。

そこで、支援団体が基本的な食料(栄養)や医療(医薬品)の援助にくわえ、教育や生活を営むための仕事や知識の援助なども行い、少しでも多くの人々が自立した生活を送れるようになるための支援をしているということを知りました。

私の住む日本もかつて第二次世界大戦で負けた大変な生活をしいられたそうですが、ユニセフや世界銀行などの支援を受け、今、私たちの幸せな生活があります。祖父母たちがより良い日本を作り開き、今の日本を作り上げたのだから、今の開発途上国の人たちもきっといろいろな団体からの支援をうけて良い国にしていけると思っています。

今の私にできることは、こうやって調べ学習で作品にすることで家族や親せき、またこれを読んでもくれた人に現状を伝えることができると思います。

また、開発途上国や紛争地域について興味を持った一人ひとりができることを考え支援の輪を広げたり、地球温暖化と向き合ったり日々の生活を見直したり、食品ロスについて考えて実行したら、みんなの小さな行重がいつか地球の大きな変化になるといいなと思います。

そして、いつかは地球上の誰も支援がなくても幸せな生活を送れるようになることを願っています。

開発途上国が貧しくなった原因のまとめ

- ① 開発途上国の多くの国はかつて植民地だった
- ② 植民地を支配する宗主国が自国の利益のために土地や農作物や資源を収奪する目的で領土にした。
- ③ 現在の先進国と開発途上国を分けた大元は宗主国の植民地政策が大きく関係している。
- ④ 植民地・領土争奪戦から第二次世界大戦になる
- ⑤ 1945年に国際連合が創設され、植民地主義を終わらせる方針をたてる
- ⑥ 開発途上国ではそれまでの仕事や暮らしが壊れているため貧困である
- ⑦ 紛争が起こると基本的な人間らしい生活が送れなくなるから貧困になる
- ⑧ 地球温暖化などの影響による異常気象からも、今までどおりの生活を続けられず貧困になる人たちがいる
- ⑨ 貧困はループする

最後に...

今回調べてみて、食品をあまらせている国があるのに、どうして食品が足りない国があるの？の根本的な原因は植民地だったから、また、植民地から解放されても、今までどおりの暮らしから抜け出せないこと、紛争や貧困など様々な理由で学校へ通えず貧困がループしていることがわかりました。

学校で理解できるまで勉強するというのが今後の私たちの人生でどれくらい大切なのか、ということもわかりました。

これから私は必要最低限(できれば以上の)知識を身につけた将来の夢や目標を持ち、そして世界へ目を向け、みんながどうしたら幸せになるのかを考えることが大切だと思いました。

最近SDGsが注目されいろんな場所で目にする機会が増えています。みんながこのゴールを理解して、みんなで行って開発途上国の暮らしを変えたいと思いました。

参考・引用文献リスト

(本を参考にした場合)

作品名:

あなたの名前: 鍛治倉夕那

NO.	著者名	書名	出版社名	出版年	図書館名
参考	池上彰/監修	世界がぐっと近くなるSDGsとボクらをつなぐ本	学研プラス	2020.02	巣鴨図書館
1	井田仁康/総合監修	SDGsでかんがえよう地球のごみ問題 2 どうしたらへらせる?食品ロス問題	童心社	2021.03	巣鴨図書館
参考	古沢広祐/監修	こどもSDGsブック 自分が変わると世界も変わる!	金の星社	2022.9	巣鴨図書館
参考	稲葉茂勝 著, 渡邊優 監修	SDGsのきほん-未来のための17の 目標-1 SDGsってなに?-入門-	ポプラ社	2020	巣鴨図書館
参考	稲葉茂勝 著, 渡邊優 監修	SDGsのきほん-未来のための17の 目標-2 貧困-目標1-	ポプラ社	2020	巣鴨図書館
2	稲葉茂勝 著, 渡邊優 監修	SDGsのきほん-未来のための17の 目標-3 飢餓-目標2	ポプラ社	2020	巣鴨図書館
4	岩附由香/監修	親子で学ぶSDGs 日本人が今、やらないといけなことがわかる本	扶桑社	2012.12	巣鴨図書館
参考	稲葉茂勝著 鎌田靖監 修 こどもくらぶ編集	国連ファミリー・パーフェクトガイドー SDGsがより深くわかる!しくみと役割ー	新日本出版	2022	巣鴨図書館
参考	石井光太著	地球村の子どもたち-途上国から見たSDGs-1 格差	少年写真新	2020	巣鴨図書館
3	国谷裕子/監修	国谷裕子と考えるSDGsがわかる本	文溪堂	2019.1	巣鴨図書館

参考・引用文献リスト

作品名：食品をあまらせている国があるのに、どうして食品が足りない国があるの？

(Webページを参考にした場合)

あなたの名前：鍛冶倉夕那

No.	Webページを制作した人・団体名	Webページ名	URL
	東京都立図書館	世界の国と地域を知る	https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/search/research_guide/olympic-paralympic/area-studies/index/
	UNHCR(国連高等難民弁務官事務所)	中央アフリカ共和国	https://www.japanforunhcr.org/appeal/car
	ユニセフ	シエラレオネ	https://www.unicef.or.jp/special/africa/story/story03.html
	国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン	ソマリア	https://www.worldvision.jp/news/works/africa/202008_somalia.html
	UNHCR(国連高等難民弁務官事務所)	ナイジェリア	https://www.japanforunhcr.org/appeal/nigeria
	日本国際飢餓対策機構	チャド	https://www.hungerzero.jp/news/archives/202107/003270.html
	学研	gakkenキッズネット	https://kids.gakken.co.jp/iten/dictionary